



はらじゅくかわら版

独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



病院屋上にて

左より：藤澤看護部長、宇治原副院長、鈴木院長、古谷副院長、小松臨床研究部長、小嶋事務部長

第70号 目次

院長新年挨拶 1

病診連携施設紹介 2

泉区医師会副会長新年ご挨拶

特集 - 医師が語る疾患 - 3

第26回 いつの時代も「たかが便秘、されど便秘」

行事紹介

戴帽式 4

楓葉祭（シンポジウム）の開催 5

行事紹介

シンボルツリー点灯！&クリスマスツリー . . . 6

外来担当医表／編集後記 7

発行 月：令和3年1月
発行 行：独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター 広報委員会
発行責任者：鈴木 宏昌
住 所：横浜市戸塚区原宿3-60-2
電 話：045-851-2621
FAX : 045-851-3902
URL : http://www.yokohama-mc.jp



●当院携帯サイトはこちらから

院長年頭挨拶

新年あいさつ



院長 鈴木 宏昌

新年あけましておめでとうございます。年の初めに際し一言ご挨拶を申し上げます。

皆様、どのような年末年始をお過ごしでしたか。いまだ終息の兆しを見せないこのコロナ禍です。皆様方も生活スタイルを変える事を強いられ、さらに人が集まる機会の多い年末年始の恒例行事等にも大きな影響が出た事と思います。

令和はまさに波乱の時代の様です。令和元年は自然災害多発の年、そして令和2年は100年ぶりの新興感染症流行の年でした。我々医療関係者は、多くの未経験な事柄への対応に終始し「あっという間に過ぎた」一年でした。昨年の出来事を振り返り、新しい年への抱負を述べさせていただきます。

まずは新型コロナウイルスへの対応です。日本の感染症対応は「感染源の封じ込め」が中心で、「大流行への対応」は国も病院も当事者的視点が欠けていたと感じています。医療者は多くの問題が解消されない状況下「ぶっつけ本番」状態でこの感染症に対応しました。さらに皆様には面会規制やマスク着用等の指示を出させていただきました。幸いにもこれらの対応の効果で、日本は感染者・死亡者数が他国に比し低く抑えられています。病院および地域の医療スタッフ、そしてご協力いただいた皆様に感謝いたします。

当院は昨年2月のダイヤモンドプリンセス号

から新型コロナウイルス感染症対応を開始、その後院内に対策本部を常設、日々「備えを強化」しました。10月からは近隣の介護施設等に職員を派遣、患者の急増を招く施設内クラスターを防ぐための勉強会を継続的に開催しています。今年も地域と共に「備えを強化」する所存です。

次は患者さん方の行動の変化です。病院への受診行動が「不要不急」という信じがたい出来事が現実となりました。この影響で全国の病院が非常に苦しい経営状況となり、病院の存続も危ぶまれています。適正な受診行動は疾患の重症化を防ぎ、さらに一部病院に負荷が集中しない適切な医療体制を守ります。しかし今回のコロナ禍はこの流れを断ち切った様です。ポストコロナの時代でも、この流れは止まらないと言われています。

必要な時に必要な医療が受けられる体制を維持するためには、適正な受診行動と医療の役割分担が必須です。当院はこの地域の「最後の砦」病院として安心・安全な高度医療を提供する事が役割です。今年はこのコロナ禍のピンチをチャンスに変え、病院機能をさらに向上させる初年度と位置づけ努力する所存です。

皆様におかれましては、今年も適切に「医療にかかり治療を受ける事」をお願いいたします。今年も「備えを強化」している当院をよろしくお願いいたします。

病診連携施設紹介

横浜市泉区医師会副会長ご挨拶



一般社団法人
横浜市泉区医師会副会長
医療法人彩葉会カナイ眼科院長
金井 光

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって良い1年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、世界中が新型コロナウイルス感染症の流行に見舞われ、医療が危機に瀕した不幸な年でした。年が明けても、残念ながら未だにこの感染力が極めて強いウイルスとの闘いは継続しています。横浜医療センターの先生方を始めスタッフの皆様方には、感染症の流行発生の当初から骨身を削るような献身的な対応をしていただき、いくら感謝しても足りません。本当にありがとうございます。流行が終息し、混乱した医療現場が平常に戻る日が1日も早く来ることを願って止みません。

さて、このような感染禍の中、資材調達の滞りなどで工事が大幅に遅れていた泉区医師会の新しい医師会館が昨年9月に完成しました。泉区医師会は新しい医師会館に移転し、泉区休日急患診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業、在宅医療相談室、そして横浜市医師会の南西部夜間急病センターがあらたな環境のもとで診療あるいは業務を開始しました。

この場をお借りして少しだけ会館の紹介をさせていただきますと、新しい医師会館は、相鉄いずみ野線いずみ中央駅から徒歩8分程度で、泉区役所や消防署の隣接地にあります。会館は

3階建てで、1階はすべて診療スペースです。待合室を広くとり、年末年始など患者さんが集中する時期にも対応できるようにしました。2階は在宅の各部門が集約され、3階には120人を収容できる大会議室を設けました。これにより、学術講演会などは大勢の参加者を集めての開催が可能になりました。今後、様々な会合で広く活用していきたいと考えています。

このような立派な医師会館が完成した今、泉区医師会にとって目下の最大の課題は、やはり新型コロナウイルス感染症に対する対応です。泉区休日急患診療所は、入り口の前に患者さんの問診用のテント2基を設置し、診療所内部もビニルシートで動線を区切り、発熱患者さんに対応しています。休日急患診療所という性格上、新型コロナウイルスに対するPCR検査あるいは抗原検査は翌日にしかるべき施設を受診していただくということで年末年始以外は実施ませんが、医師会の内科、小児科、耳鼻咽喉科の先生方に交代で発熱を始めとする様々な患者さんの診察にあたっていただいています。

泉区医師会は、今年もまた横浜医療センターおよび泉区内の基幹病院のお力添えを得て地域の皆様の健康管理に努めてまいりますので、引き続き医師会活動に対するご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

特集－医師が語る疾患－

第26回 いつの時代も「たかが便秘、されど便秘」

消化器内科医長 山田 英司

今回は、便秘についてお話させていただきます。一般的に、病院で治療を行う場合、医師は自分の経験や勘のみに重きをおいて治療を行うものではありません。学会などが刊行しているガイドライン(治療指針)を参考にして治療を行っています。そうすることで、エビデンス(科学的根拠)の高いよりよい医療が提供できます。意外と思われるかもしれませんが、最近まで、日本には便秘のガイドラインはありませんでした。医師は、患者さんから便秘の訴えがあると、特に便秘の原因やタイプについて言及せずに自分の処方し慣れている下剤を処方していました。そのため、便秘を主訴に病院を受診しても、十分な満足感が得られないこともありました。

しかし近年は日本の便秘診療も変わりつつあります。2017年に消化器病学会から慢性便秘の診療ガイドラインが刊行され、便秘診療をどのように行っていくべきかの指針が示されました。このガイドラインの新しい点は、これまでのように便秘を一括りにするのではなく、排便回数減少型や、排便困難型と便秘を症状に応じて分類し、この分類に応じた治療を行っていくことを提唱した点です。このガイドライン刊行に加えて、最近新しい作用機序の便秘治療薬が次々と発売されています。これらをきっかけとして、これまで短絡的であった日本の便秘治療が、より患者さんのニーズにこたえられるものに変わりつつあります。

便秘診療において特に大事な点は、

- ・食生活を中心とした生活習慣に問題はないか？
- ・便秘の原因として大腸癌がかくれているか？
- ・適切な下剤を選択できているか？

の3点です。

横浜医療センターでは、食生活については栄養管理室とも連携し、便秘改善に有効な食事や効率的な食物繊維の摂取方法についての相談が可能です。

大腸癌の有無を調べる内視鏡検査については、苦痛が軽減できるように鎮静剤や細径内視鏡(細くて柔らかい内視鏡)、CO2送気(検査に伴うお腹の張りが少なくなります)を用いた内視鏡検査を積極的に行っています。

下剤については、前述したとおり、新しい治療薬が加わったことで処方選択肢がふえました。一方で、下剤の中には、妊婦には使用できない下剤や腎障害があると注意が必要な下剤もあります。加えて、近年は、かつては多く処方されていた腸の神経を刺激するタイプの下剤の長期使用に伴う腸管機能の低下も問題になっています(写真1、2)。このような不適切な下剤の処方を避けるため、横浜医療センターでは、便秘に関する研究や論文報告を積極的に行い、日々研鑽を積んでいます。便秘も日常生活や仕事の効率に影響を与える立派な病気です。「なかなか便秘がよくなる」「今の自分の便秘治療が適切であるかわからない」そんな方は、一度消化器内科の外来で相談されてみてはいかがでしょうか？



写真1 正常な大腸の内視鏡写真

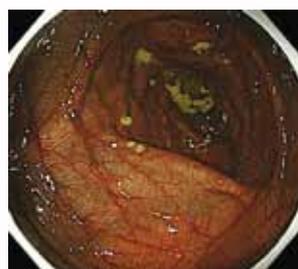


写真2 腸管の神経を刺激する下剤を長期に使用したため、腸の運動機能が低下した大腸。大腸の粘膜に著明な色素沈着を認める。



写真3 内視鏡検査

行事紹介

戴帽式

横浜看護学校

戴帽式は、看護学生が看護の道へ進む決意を宣誓する式典です。男性にはエンブレム、女性にはキャップが授与され、ナイチンゲールの聖火を継承し誓詞を宣誓します。ナースキャップが廃止され多くの学校では戴帽式を行わなくなりましたが、当校は看護学生にとって大切なセレモニーとして続けてまいりました。

今年は新型コロナウイルス感染という事態により中止も考えましたが、規模を縮小し、感染防止に努めながら実施しました。78名の学生の決意表明は未曾有のことにも立ち向かう強さを感じられました。

ご参列いただけなかった保護者の皆様には動画をお送りしました。



行事紹介

ふう よう さい

楓葉祭(シンポジウム)の開催

横浜看護学校

10月23日金曜日に楓葉祭(学校祭)を行いました。例年、地域の皆様に多数ご来場いただいておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、やむを得ず例年のような形式の学校祭は行わないこととし、一般公開も中止いたしました。

代わりに、学生の代表が看護についての考えを発表し、参加者と意見交換を行うシンポジウムを実施しました。

約240名の学生が密にならないよう、1・2年生は大型教室と体育館に分かれ、3年生は自宅からオンラインで参加しました。発表者は1・2年生いずれかの教室で発表し、その様子をもう一方の教室と3年生の自宅に中継するというwithコロナ時代ならではの方法を取り、全員が参加しました。

発表内容は、戴帽式を終えた1年生は「目指す看護師像」をテーマに3名、基礎看護学実習前の2年生は「対象を理解すること」ということ」のテーマで2名、3年間の総まとめの実習を行っている3年生は実習の学びをまとめた「ケーススタディ」を6名、計11名が発表しました。発表内容からは、各学年代表の看護に対する熱意が十分に伝わりました。

発表後は質疑応答に加え、参加者全員がシンポジストに意見や質問を付箋に書き、ホワイトボードに貼りました。発表者は後日、質問に対する答えを紙面で回答しました。

全学生が真剣に取り組み、素晴らしい会になりました。

このような形式でシンポジウムをおこなえたのも、5月～6月下旬までオンライン授業を実施してきた経験や、学生側・学校側の通信環境が整備されていることが大きな要因と思います。学生のご家族の皆様や病院職員の皆様に心より感謝申し上げます。

今後も感染予防の観点は重要視しながらも、「コロナだからできない」と諦めることなく、学生とともに学校行事を作り上げていきたいと思っております。



行事紹介

シンボルツリー点灯！

企画課長 渡邊 博幸

約10年前、当院の新築建替の際に正面玄関前ロータリーに植樹した樺の樹（シンボルツリー）に、数年前から多数の電飾を飾り、冬の冷たい空気の中に映える“クリスマスイルミネーション”として地元の皆さまに披露してきました。しかしながらコロナ禍の今年、事務職員としてはあまり派手なことは控えた方が良いのかと設置に多少の躊躇いも生じていたところ、鈴木院長から「こういう時期だからこそ市民の気持ちが明るくなるようなことを横浜医療センターとして積極的に動くべし！」という心強いお言葉をいただき、目から鱗が音を立ててはがれ落ちました。

そんなちょっとしたエピソードはあったものの、11月25日に無事設置が完了し、同日よりこれまで同様の素敵な光を届けさせていただいております。



クリスマスツリー

医療サービス推進委員会

クリスマスツリーの飾り付けはいろんな職種で構成された医療サービス推進委員で飾り付けを行いました。

毎年12月は外来ホールにてクリスマスコンサートを開催しておりますが、このコロナ禍、残念ながら中止せざるを得ない状況で（楽しみにされていた皆様、申し訳ありません）、少しでも来院された皆様にクリスマス気分を味わっていただけたらと思います、大きめのツリーは外来ホール、小さめのツリーは夜間休日受付より入った正面に設置しました。



診療科		月	火	水	木	金
外来受付 A	小児科	鍋木 陽一	福山 綾子	只木 弘美	鍋木 陽一	塩谷 裕美
		原 良紀	本井 宏尚	伊波 勇輝	矢内 貴憲	鈴木 裕二
		加藤 愛美		石丸 愛		白井 綾乃
	心臓血管外科	村上 弘典	休診日(手術日)	盆子原 幸宏	休診日(手術日)	久米 悠太
	形成外科	柏木 慎也	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃
	整形外科	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	佐藤 雅経
		小林 明裕	小澤 祐樹	小澤 祐樹	佐藤 雅経	小林 明裕
		堀 莉彩	日野 勝利	勝山 陽太	堀 莉彩	森田 彰
		勝山 陽太			森田 彰	
	外来受付 B	総合内科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
糖尿病内分泌内科		田島 一樹	交代医師	田島 一樹	高橋 明裕	田島 一樹
		高橋 明裕		末園 太一	宇治原 誠	
脳神経内科		小島 麻里	栗田 悠輔	高橋 竜哉	鈴木 聡	休診日
腎臓内科		松下 啓	毛利 史将	松下 啓	森田 隆太郎	休診日
呼吸器内科		須藤 成人	休診日	梶田 至仁	休診日	廣瀬 知文
消化器内科		中島 聡美 (第1・3・5曜日)	川島 捺未 (第1・3・5曜日)	田邊 浩紹 (第1・3・5曜日)	細矢 さやか (第1・3・5曜日)	山田 英司 (第1・3・5曜日)
		野中 敬 (第2・4曜日)	松島 昭三 (第2・4曜日)	小松 達司 (第2・4曜日)	石井 研 (第2・4曜日)	葛生 健人 (第2・4曜日)
循環器内科		小池 俊晴	森 文章	岩出 和徳	齋藤 貴士	森 文章
膠原病・リウマチ内科		井畑 淳	関口 章子	井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳
外科・消化器外科		清水 哲也	関戸 仁	木村 準	関戸 仁	休診日 (手術日)
			太田 郁子 (乳腺外科)	交替医師		
呼吸器外科		休診日 (手術日)	増田 晴彦	休診日 (手術日)	渡部 克也	渡部 克也 (第1・3・5曜日) 増田 晴彦 (第2・4曜日)
脳神経外科		休診日 (手術日)	岡田 富 (第1・3・5曜日)	瓜生 康浩 (第1・3・5曜日)	休診日 (手術日)	宮原 宏輔 (第1・3・5曜日)
			宮原 宏輔 (第2・4曜日)	田中 悠介 (第2・4曜日)		谷野 慎 (第2・4曜日)
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	赤羽 邦彬	佐々木 祐幸	赤羽 邦彬	交代医師
	眼科	木村 正彦	永田 有司	岡部 智子	木村 正彦	田島 彬子
		藤田 智子	岡部 智子	田島 彬子	永田 有司	藤田 智子
	泌尿器科	今野 真思	平井 耕太郎	休診日 (手術日)	平井 耕太郎	今野 真思
		石川 達郎	宮井 敏孝		藤岡 あずみ	石川 達郎
皮膚科	上田 喬士	上田 喬士	休診日 (手術日)	上田 喬士	上田 喬士	
	皆川 大輔	皆川 大輔		皆川 大輔	皆川 大輔	
外来受付 D	精神科	休診日	休診日	交代医師	休診日	交代医師
	産婦人科	向田 一憲	奥田 美加	内山 亜弥	乗杉 輝彦	中島 文香
		柳澤 美弥	高山 智子	淵向 なつみ	交代医師	飯島 崇善
	産科	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)
	歯科口腔外科		根岸 明秀		根岸 明秀	
		渡辺 大智		渡辺 大智		
専門外来 (予約制)	脳神経内科	物忘れ外来	頭痛外来 (第2・4曜日)			
	膠原病・リウマチ内科			関節超音波		
	呼吸器内科			アスベスト外来 (第1曜日)		
	脳神経外科			脳神経血管内治療外来		
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	幡多 政治	杉山 正人
	精神科	物忘れ外来				物忘れ外来

初診受付：(平日) 8:30～10:30

休診日：土曜日・日曜日・祝日、12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けております。来院前に病院にご連絡下さい。(代表)045-851-2621

※ 青色の枠の担当医 は、完全予約制となります。

◆編集後記◆

新たな年を迎え昔で言うなら還暦を迎えたが、今年ほど新たな年に対する期待が大きかった年は無かったように思う。全国の寺社では初詣の参拝者に対し密を避ける対策が取られ、例年の混雑は避けられたとのことだが、むしろ以前通りの人と人が触れ合うくらいの混雑が良かったと思うのは生来の天邪鬼の性格のみならず多少の賛同は得られるだろう。参拝者の全ての願いは普通に会話して普通に飲み食いができる生活だと思う。仕事終わりに、部下に対して気軽に「飲みに行こうぜ!」と誘える日が待ち遠しい。(Y・K)